

科目名	あそび基礎演習Ⅰ		担当教員	深谷 ベルタ・田中 葵 大澤 ちづる		
			担当形態	オムニバス・複数		
テキスト	適宜資料を配布する。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	前期

講義概要

■到達目標

- ・子どもの遊びや表現活動を支えるために必要な保育の基礎知識や表現技術が身につく。
- ・表現の多様性を理解し、様々な表現を受け止める姿勢を養うとともに、身体・音楽・造形・言語等を用いて自らの柔軟な発想を活かした表現ができる。

■授業の概要

身体・音楽・造形表現の観点から、様々な遊びとして現れる具体的な保育の内容を取り上げ、保育の内容と幼児の表現について 実技を踏まえながら解説を行います。さらにその発展として、上記3分野の表現に言語表現を合わせた合同ワークショップ型授業を実施し、総合的な表現を体得します。授業方法は、主に実技、制作、創作、グループワーク、発表で展開します。

◇身体表現：保育者の豊かな身体表現は、子どもの表現を引き出す要因の一つとなります。思い切り体を動かしたり、丁寧に身体感覚に耳を傾けたりすることを通して、ダイナミックかつ繊細な身体表現の楽しさを味わいます。様々な人と関わり、自分と他者の身体表現の違いを学びます。

◇音楽表現：音・音楽や動きによる様々な遊びや表現を経験します。身のまわりにあるものから音を探し出し、音に耳を澄ませ、音を重ね合わせていくおもしろさを味わうなど、音・音楽を使ってどのような表現や遊びを創り出せるのかを具体的に学びます。

◇造形表現：描くことや制作を体験しながら表現することについて学び、表現された内容、必要となる「環境」「人間関係」等と合わせて検討できるようになること。感性や表現力を磨き、表現に対する理解を深め、他の学生と共同し、好奇心や関心をもって自らを育てること。保育の中でよく用いられる素材や教材、道具等に親しみ、制作を楽しみながらそれらの特性や活用方法を理解すること。

■授業計画

3つのグループに分かれて平行して行われ、ローテーションをしながら展開する授業です。基本的に身体・音楽・造形表現の要素をおさえながら、各分野で関連する言語表現の内容も取り上げます。合同ワークショップでは受講生全員および全教員で総合表現を行います。

◇身体表現（担当：田中葵）

- 第1回 リズムとからだを使った遊び
- 第2回 日常生活での身体表現を使った遊び
- 第3回 五感を意識した遊び
- 第4回 フォークダンス

◇音楽表現（担当：大澤ちづる）

- 第1回 ことばと動きと音遊び（わらべうた、手あわせ歌）
- 第2回 身のまわりの素材を使った音遊び
- 第3回 リトミックの基礎
- 第4回 ペープサートと歌遊び

◇造形表現（担当：深谷ベルタ）

- 第1回 造形の視点① 色に注目する
- 第2回 造形の視点② 線や面に注目する
- 第3回 造形の視点③ 立体表現に取り組む
- 第4回 素材に注目する 砂

◇合同ワークショップ型授業（担当：深谷ベルタ・田中葵・大澤ちづる）

- 第1回 身近な素材（新聞紙）での遊びに取り組む
- 第2回 パネル・シアターを制作し演じる
- 第3回 学園祭に向けて展示企画し準備する

■準備学習

小レポートの作成及び実技課題等の提示があります。指示に従って授業までに準備すること。本演習専用のファイル（ポートフォリオ）を毎回整理し、授業内容の理解定着を図ること。円滑な活動ができるために素材や道具を各自で用意する必要があります。（特記事項を参照）

■評価方法

- ・制作物や実技の成果 — 50%
- ・授業での取り組み（ワークショップや活動への積極的な取り組み） — 50%

参考文献	必要に応じて資料を配布するが自ら記録する学びのポートフォリオが資料となる。	特記事項	<p><身体・音楽表現授業への参加について> 必ず動きやすい服装で参加すること。上履きを持参すること。</p> <p><造形表現授業の持ち物について> 道具類は（場合により素材も）各自で用意する必要があります。（同じ道具類が「こどもと文化Ⅰ、Ⅱ」の授業で使われることがあります）。用意すべき道具は、ハサミ、カッターナイフ、ホチキス（ステドラー）、油性マーカーペン（黒）、液体糊、セロハンテープ、絵筆（2本）です。汚れても構わない服装で参加すること。 【課題等のフィードバック方法】 発表に対しては口頭でコメントする。</p>
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼	教科に関する科目
		保	保育の表現技術